

中小企業景況情報

本情報は、県内12商工会で実施した中小企業景況調査の集計結果(179企業)をまとめた

建設業

発行・長崎県商工会連合会
 長崎市桜町4-1
 長崎商工会館8階
 問い合わせ先 TEL 095(824)5413

〔主要景況項目の動向〕

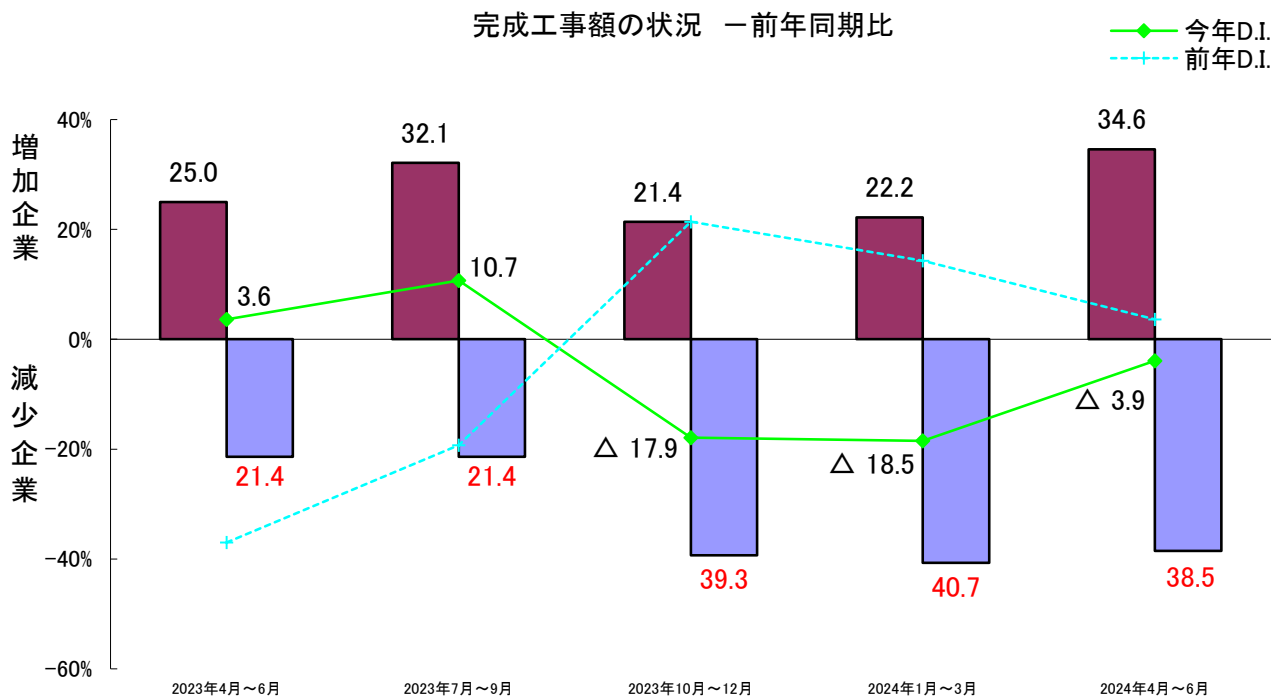
期 主要項目	2023年 4月～6月	7月～9月	10月～12月	2024年 1月～3月	4月～6月	7月～9月(見通し)
売上額						
採算						
資金繰り						
業況の動向						

晴 D・I 50.1～100
 晴時々曇 D・I 20.1～50
 曇 D・I 20～△20
 曇時々雨 D・I △20.1～△50
 雨 D・I △50.1～△100

〔調査対象企業のコメント〕

製造業	<ul style="list-style-type: none"> 未だ材料費が上がっている状態なので、製品単価を上げざるを得ない。【建築用木製組立材料製造業】 原材料価格・人件費は増加しているので、卸価格を見直したいが注文数も減ってきているので難しい。従業員も高齢ばかりで、若い人材を求めているが見つからない。【その他のパン・菓子製造業】 今期に入り、受注の低下が多少見られており、売上の増加率が悪くなっている。人件費を含め、経費が増加しており、厳しい状況はあまり変わっていない。【めん類製造業】 コロナ禍の需要の増加がそのまま現在の引合い、売上増加につながっている。売上増加に伴って製品造りが雑にならないように心掛けた。【その他の水産食料品製造業】
建設業	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍から脱却した後の資材の高騰が続き、原価の上昇により、採算面が悪化しつつある。地元での仕事量の確保が厳しくなっている。【熱絶縁工事業】 年度末が過ぎたこの時期は例年落ち着いて、仕事が少ないが、工事の予定が計画・施設の整備についての相談や見積りが多く、決まれば年内の工事受注量は確保できそうだ。【一般土木建築工事業】 前期と比べて完成工事は増加したものの、利益が悪化しているので経費と粗利を上げて原価管理を行う。【木造建築工事業】 残業時間の上限規制により、受注を控えなければならなくなり、売上減少が心配だ。【鉄骨工事業】
小売業	<ul style="list-style-type: none"> 需要の停滞で収益の上昇が見込めなくなり、新規設備投資を望んでいる。補助金制度を活用できれば事業再編・新分野展開に活路を見出していきたい。【婦人服小売業】 天候不順などにより野菜等の相場高く、予測できなかった入札による赤字が続いている。物価の上昇も含め販売価格を上げているが、取り引きで他社とのふるいにかけられている状態である。【各種食料品小売業】 コロナ感染症が5類に移行してから当社の業況は好転が続いている。売上上昇に伴って従業員の確保が必要だが難しい状況である。【菓子小売業(製造小売)】 4年に1度の小学校教科書改訂年度にあたり、新規購入が増えたことにより、売上が増加した。【書籍・雑誌小売業(古本を除く)】 新札に対するPOS釣銭機を新しく導入し、劣化のために新しい機械を導入しないといけない時期と重なって資金繰りが大変厳しい。さらには、売り上げが減少する梅雨時期になり、先行きに不安がある。【ガソリンスタンド】
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> 10年前は5月の売上が1年で最も高かったが、コロナ禍以後は全くである。ゴールデンウィーク中は少子化も影響して仕出しの注文が1件もなく、時代の流れを感じている。【すし店】 売上は順調に回復しているが、物価高騰による経費の増額が止まらない。価格転嫁したいところだが客離れを意識してしまい、なかなか判断ができない。【料亭】 現在は従業員の確保はできているが、今後の課題となるであろう。それに伴い、良い人材を確保するための人件費の高騰が予想される。需要と利益のバランスと設定価格を間違わないよう注意が必要だ。【旅館、ホテル】 物価の上昇がここところ激しい。価格の見直しをして利益を確保したいが、値上げすると客数減少が予想されるため厳しい。今後、状況を見ながら価格転嫁を検討していく。【理容業】 ゴールデンウィークが明けても、観光客が途切れることなく忙しかった。その分、車両の傷みも早く、管理に気を遣う。夏に向け、客足は増加する見込みなので、車両管理を含め、準備をしておきたい。【自動車賃貸業】

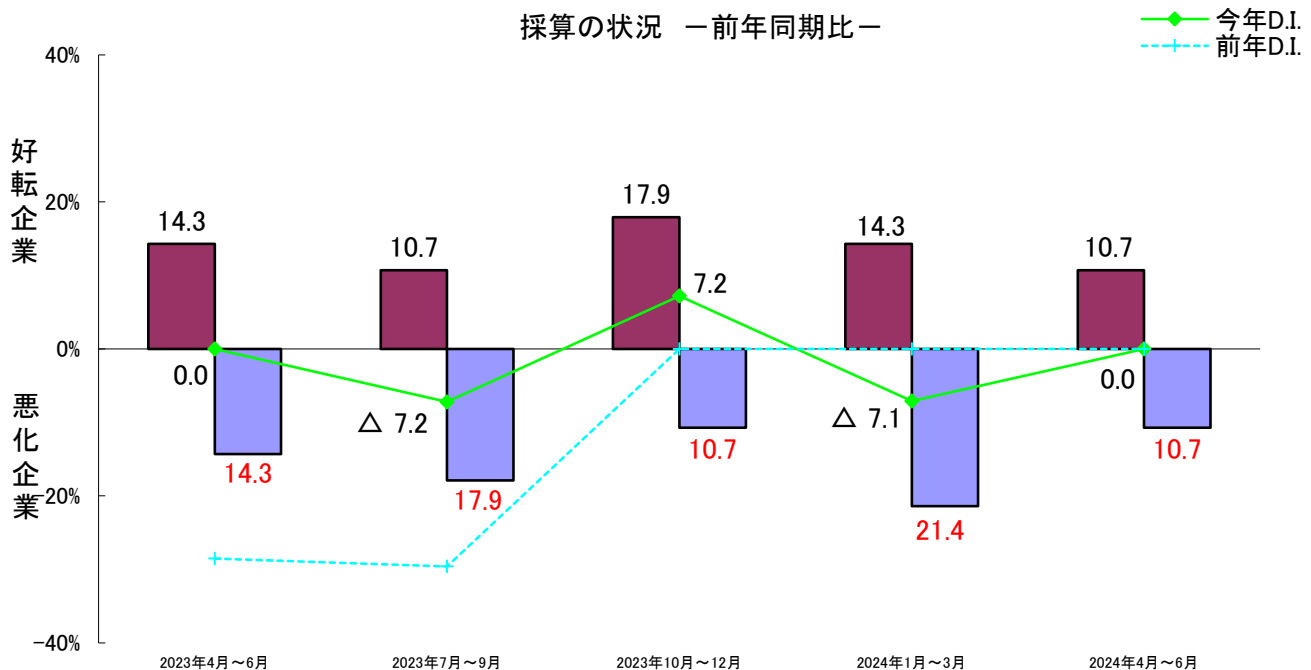
①【建設業】売上の動向



今期、売上が「増加した」と答えた企業は34.6%と、前期の22.2%から12.4ポイント増加した。また、「減少した」と答えた企業は38.5%で、前期の40.7%から2.2ポイント減少した。したがって、今期のD・I値は△3.9と、前期の△18.5から14.6ポイント改善した。

「来期の見通し」では、増加すると予測した企業は11.5%、減少すると予測した企業も11.5%で、これにより来期のD・I値は0.0と、今期の△3.9から3.9ポイントの改善を予測している。

②【建設業】採算の動向



今期、採算が「好転した」と答えた企業は10.7%で、前期の14.3%から3.6ポイント減少した。また、「悪化した」と答えた企業は10.7%で、前期の21.4%から10.7ポイント減少した。したがって、今期のD・I値は0.0と、前期の△7.1から7.1ポイント改善した。

「来期の見通し」では、好転を予測した企業は3.6%、悪化を予測した企業は7.1%で、これにより来期のD・I値は△3.5で、今期の0.0から3.5ポイントの悪化を予測している。

③【建設業】新規設備投資の状況

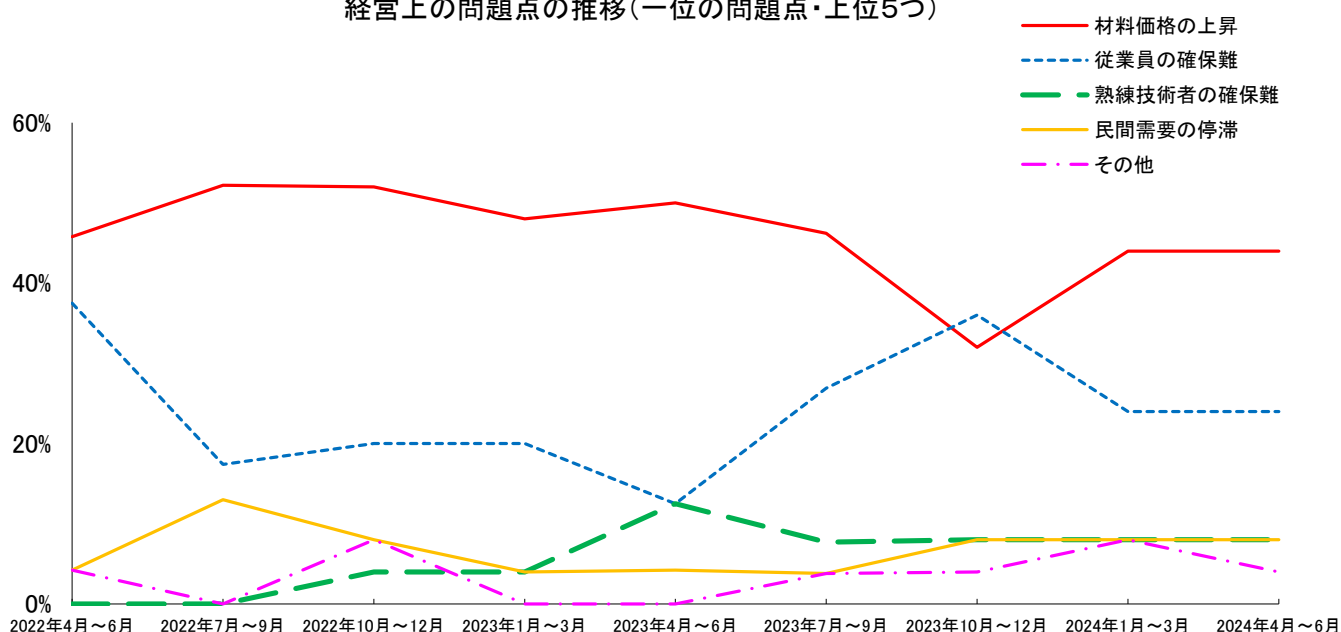
※投資内容は複数回答 (%)

項目 期	実施 して ・ 計 画 る	投資内容								実施 して ・ 計 画 い ない
		土 地	建 物	建 設 機 械	車 両 ・ 運 搬 具	付 帯 施 設	O A 機 器	福 利 厚 生 施 設	そ の 他	
今 期 (2024年4~6月)	17.9	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	40.0	82.1
来 期 (2024年7~9月)	7.1	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	92.9

今期、設備投資を行った企業は17.9%で、前期に設備投資を行った企業(14.3%)を上回った。来期は7.1%の企業が設備投資を計画している。

④【建設業】経営上の問題点

経営上の問題点の推移(一位の問題点・上位5つ)



今期の経営上の問題点は、第1位が「材料価格の上昇」で44.0%、第2位は「従業員の確保難」で24.0%、第3位は「熟練技術者の確保難」、「民間需要の停滞」の2項目で8.0%であった。前期同様、材料価格の上昇、人手不足の課題に対応することが必要になる。

⑤【建設業】来期の見通し

売上(収入)額			採算			資金繰り			業況		
2024年 1~3月期	4~6月期	7~9月期	2024年 1~3月期	4~6月期	7~9月期	2024年 1~3月期	4~6月期	7~9月期	2024年 1~3月期	4~6月期	7~9月期
△18.5	△3.9	0.0	△7.1	0.0	△3.5	0.0	3.5	3.5	△10.7	10.7	10.8
傾向	↗	↗	傾向	↗	↘	傾向	↗	→	傾向	↗	↗

(注) ↗ 増加・好転、→ 不変、↘ 減少・悪化を示す。

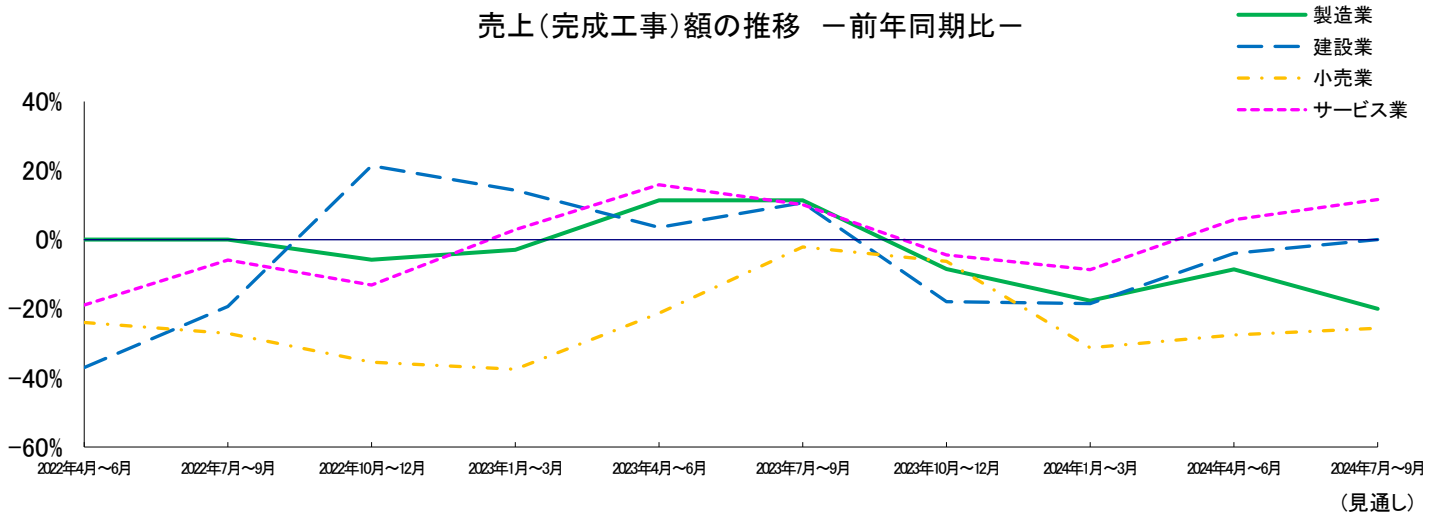
来期の見通しでは、「売上(収入)額」、「業況」の2項目で増加・好転を示しており、「資金繰り」は今期から不変である。また、「採算」は減少・悪化を示している。調査対象企業のコメントでは、工事依頼は増加傾向にあるが、資材の高騰や、職人不足で思うように受注できないとの声が寄せられている。

【売上】

今期、「製造業」（9.1ポイントの改善）、「建設業」（14.6ポイントの改善）、「小売業」（3.7ポイントの改善）、「サービス業」（14.5ポイントの改善）の4業種すべてで改善を示した。

来期の見通しで改善を示したのは、「建設業」（3.9ポイントの改善）、「小売業」（2.0ポイントの改善）、「サービス業」（5.8ポイントの改善）の3業種で、悪化を示したのは、「製造業」（11.4ポイントの悪化）であった。

売上(完成工事)額の推移 ー前年同期比ー

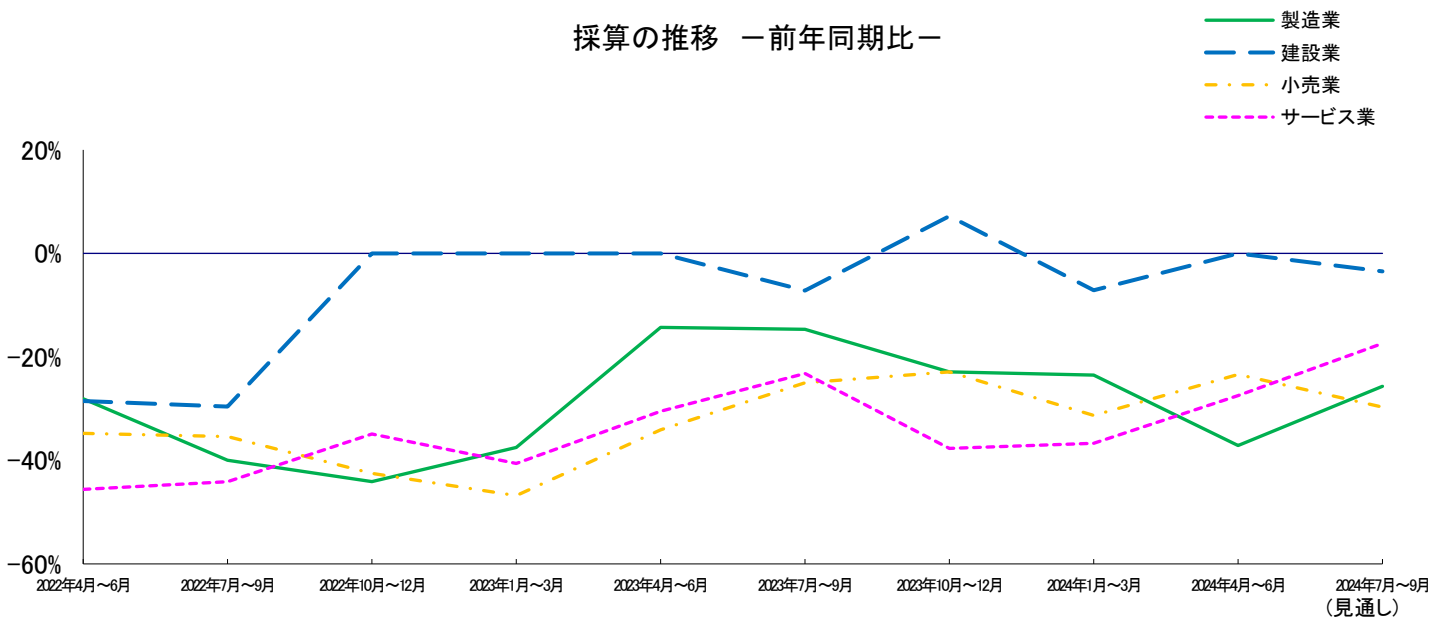


【採算】

今期、改善を示したのは、「建設業」（7.1ポイントの改善）、「小売業」（7.9ポイントの改善）、「サービス業」（9.2ポイントの改善）の3業種で、悪化を示したのは、「製造業」（13.6ポイントの悪化）であった。

来期の見通しで改善を示したのは、「製造業」（11.4ポイントの改善）、「サービス業」（10.1ポイントの改善）の2業種で、悪化を示したのは、「建設業」（3.5ポイントの悪化）、「小売業」（6.3ポイントの悪化）の2業種であった。

採算の推移 ー前年同期比ー



〔注〕本レポートの中で「D・I」とある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略です。例えば各調査項目について増加(又は上昇、好転、長期化)と答えた企業の割合から、減少(又は低下、悪化、短期化)と答えた企業の割合を差し引いた値を示す表示です。マクロ指標等では表れにくい経営者マインドを敏感につかむ事ができます。